

令和 5 年度島田市性の多様性セミナー

「元女子サッカー選手です。そして、彼女がいます。」



株式会社 Rebolt 代表 下山田 志帆 氏

1994 年生まれ。茨城県出身。慶応義塾大学卒業後、ドイツでプレーするなど、サッカー選手として国内外で活躍された経歴を持つ。2019 年には現役プロアスリートとしてセクシュアルマイノリティの当事者であることを公表し、2022 年に著書「女子サッカー選手です。そして、彼女がいます。」を出版。同じく 2019 年には自身の経験をもとに株式会社 Rebolt(レボルト)を設立し、社会課題の解決に向けた商品開発やセミナー事業等を行っている。

<無意識の偏見に気づくこと>

講師の自己紹介の後に、まず「マイクロアグレッション」「アンコンシャスバイアス」という 2 つの言葉についての説明から講座が始まりました。自分では相手を差別したり傷つけたりするつもりはないのに、結果として相手を傷つけてしまう言動「マイクロアグレッション(微細な攻撃)」、無意識な偏見のことを指す「アンコンシャスバイアス」に気づくことで、日々の会話や態度にもそれらが潜んでいないか見直すきっかけとなったといった参加者の感想が見受けられました。

<LGBTQIA+という「チーム名」>

講師からの「LGBTQIA+という言葉を知っていますか？」という問いかけに、頷く参加者もいましたが、多くの参加者はうーん…と首を横に傾けていました。「LGBT」や「LGBTQ」といった言葉は聞いたことがあっても、それ以外のセクシュアリティについては知らない方が多く、初めて聞いた言葉に驚いたという声がありました。しかし、下山田さんによるとこの言葉も「完ぺきではない」と言います。LGBTQIA+はセクシュアルマイノリティによる「チーム名」のようなものだという説明がスポーツ選手ならではの例えで印象的でした。



講演のようす

<人生の経験談>

セクシュアリティに関する基礎知識について解説があった後、下山田さんご自身のライフストーリーへと話が展開していきます。子どもの頃、女の子の服を着せられて嫌だったことや、家族が「男同士なんて気持ち悪い」と言って笑っていたこと、そしてつい先日同性パートナーと賃貸を契約しようとした際に、民間の不動産会社で「同性同士は二人入居可物件では契約できない」と言われ友人扱いにされたことなど、赤裸々な話が続く中で、参加者も聞き入っている様子でした。

また、ドイツでの経験では同性カップルが異性カップルと同じように自然と暮らしていることや、あたりまえのように「男性と女性、どっちが好きなの？」と相手がもしかすると同性愛者かもしれないという前提で話しかけられたことなど、ポジティブな経験についても語られました。そうした様々な経験の中で、自分のなかにもまだまだ偏見があることなど、当事者である自分自身も常に学び続けていることを打ち明けていました。

<子どものジェンダーバイアス>

映像資料では、下山田さんと、下山田さんに質問する子どもたちのようすを視聴しました。「女子サッカーは体が弱い」「おんななのにおんなと LOVE なの?」といった子どもたちの純粋かつストレートな発言が飛び交い、幼少期から「男の子らしさ・女の子らしさ」の影響を受けていることがはっきりとわかる内容でした。

([BuzzFeed Japan「現役女子サッカー選手にキッズたちが質問してみた【キッズ Q】」](#))



著書「女子サッカー選手です。そして、彼女がいます」を手に持つ下山田さん

<さいごに>

最後に、下山田さんから参加者への提案として、自分の発言や周りの環境・制度を見直してみること、辛い思いをしている当事者ではなく、その近くにいる人が少しだけ頑張ってみることが挙げられました。そして、Rebolt のミッションである「WAGAMAMA であれ」を達成するために、下山田さん自身も無意識の偏見に気づき声をあげ、一緒に学び続けることを表明してくださいました。

質疑応答は、質問用紙の提出または電子フォームの入力で質問を募集しました。短い時間でしたが多数質問をお寄せいただき、その中からいくつかの質問を取り上げました。参加者の熱心な姿勢に、質問に応える下山田さんにも熱が入り、大盛況のうちに終えることができました。